

GRADED CARE PROFILE (GCP) SCALE

**A qualitative scale for measure
of care of children**



To
Masumi Mizushima
for Kumashiki Children's
Consultation Office.
O. P. Srivastava



DR. LEON POLNAY,
Professor in Community Paediatrics
University of Nottingham
Queen's Medical Centre
NOTTINGHAM

DR. O. P. SRIVASTAVA,
Consultant Community Paediatrician
Bedford & Luton Community NHS Trust
Edwin Lobo Centre
633 Dunstable Road
LUTON, LU4 8QR

Bedfordshire and Luton
Community NHS Trust **NHS**

LUTON
BOROUGH COUNCIL

The Graded Care Profile (GCP) Scale

～ A qualitative scale for measure of care of children ～

BY Dr.Om Prakash Srivastava, Richard Fountain, Patrick Ayre and Janice Stewart

© Copyright O.P Srivastava,1995

作 成：岡山県児童相談に係る基準等作成グループ 2008

改訂：「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループ 2010

Dr. Om Prakash Srivastava からの手紙 (翻訳)

2008年6月20日

日本国〒710-0052 岡山県倉敷市美和1-14-31
岡山県倉敷児童相談所

The Graded Care Profile (GCP)について

水島様へ

2008年6月2日付けで「Graded Care Profile Scale」の使用許可申請のお手紙をいただき、誠にありがとうございました。貴殿の非常に重要なプロジェクトにこのツールを使用していただくことに関しては全く問題ありません。ただし、ツールの出典を明らかにするために、文面のどこかに出典・参照文献を記載していただくようお願いいたします。

これは、ツールの品質を保全するためと著作権の条件を満たすためなので、ご了承ください。このツールの使用を希望される方にこちらからお金を要求することはありません。

また、掲載していただくのは「このプロジェクトにおけるこのツールの使用については、著者から許可を取得した」というような短い文章で十分です。念のため、写しを私まで送付していただくようお願いいたします。

話は変わりますが、貴殿の重要なプロジェクトにこのツールが役立つことを大変うれしく思っております。このツールを有効活用するためには、日本語に翻訳する必要があると推察しておりますし、実際にそうされると思っております。もし何かお手伝いできることがありましたら、遠慮なくご連絡いただくとお願いいたします。

私は現在、2004年に実施した調査の結果に基づき、更新版を作成しているところです。完成次第、貴殿まで送付いたします。ここイギリスで、我々「Luton Borough Council」以外で、このツールの使用を希望する組織・団体等のために、無料で研修を実施しております。ルートンでは、家族支援センターのスタッフによってこのツールが使用されており、親・保護者とともに初期の評価を行います。親・保護者の養育能力が不足する領域があった場合（3点、2点または1点）には、その領域を改善するための目標を設定し、少しずつ改善できるよう（例えば、1点から2点、2点から3点、3点から4点など）努力していきます。GCPの点数の高い領域がある場合（5点または4点）には、親・保護者をほめることによって、養育能力の不足する領域を改善するために力を尽くす動機となるのがスタッフの調査結果で判明しています。少しずつ改善を重ねていくことにより、目標は達成できると考えられています。

我々の説明マニュアルをお持ちかどうかわかりませんが、念のために同封いたします。

貴殿のプロジェクトの成功を祈っております。その進展を把握できるように、今後とも連絡をいただけるようよろしくようお願いいたします。

Dr. Om Prakash Srivastava.

オム・プラカッシュ・スリヴァスタヴァ

I 『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』とは

『The Graded Care Profile (GCP) Scale』^{※1}（以下「GCP」という。）は、子どもの育ちに必要な領域において、親や養育者がうまくできている領域と、心配に感じたり、時には専門機関の支援が必要かもしれない領域を客観的にチェックするためにイギリスで開発されました。

『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』（以下「チェックシート」という。）は、イギリスで実際に使われているGCPをもとに、日本の風土や生活習慣に合うように開発したものです。

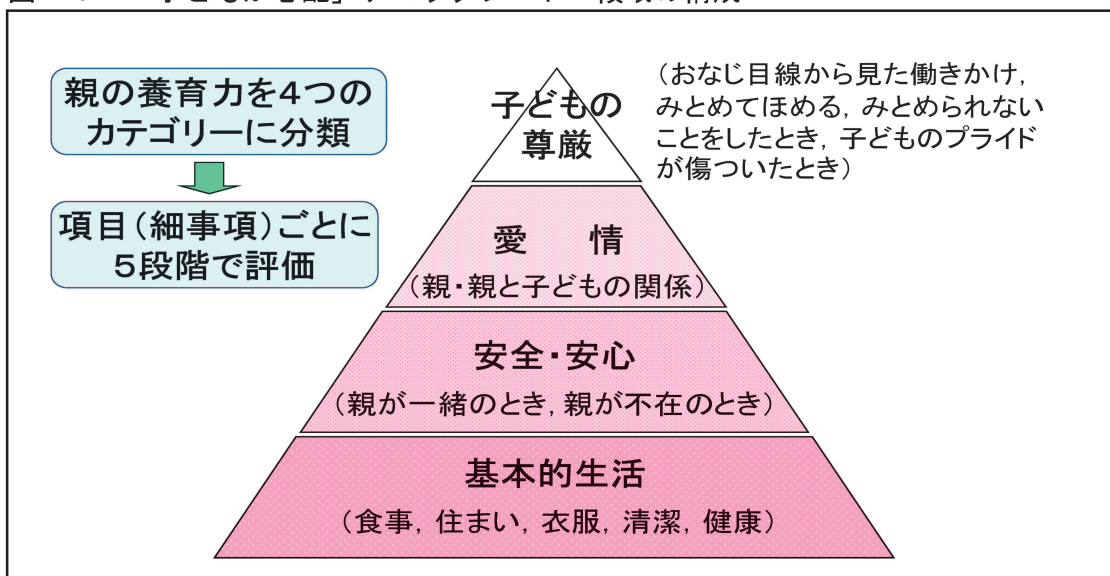
チェックシートはGCPと同様に、日々の暮らしの中で、なかなか意識することが難しい子どもへの関わり方を「基本的な生活」「安全・安心」「愛情」「子どもの尊厳」の4つのカテゴリー（※GCPでは「領域」と呼んでいましたが、チェックシートでは「カテゴリー」と呼びます。）に分類しています。

4つのカテゴリーは、さらに子どもと親と一緒にやる様々な活動ごとに分けられています。そして、それぞれの活動を子どもの育ちを中心にした視点から5段階で評価することで、親（※GCPでは「親や養育者」と呼んでいましたがチェックシートでは、「親」という呼び方に統一しています。）を中心としてではなく、子どもの育ちを中心に子育てを確認することができます（図-1）。

このチェックシートを使うことで、親がうまくできているところと、心配なところを確認することができ、親だけではなく、子どもに関わる様々な大人や専門機関の人々が一緒に、これからの子どもの暮らしのことを考えるときにも役立てることができます。

また、様々な立場の子どもの支援者が、「子どものどこが心配なのか」という認識を共有することができ、必要ならば児童相談所などの子どもの支援を行う専門機関にそれを相談（送致）することもできます。

図-1 「子どもが心配」チェックシート 領域の構成



“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”
をもとに, 岡山県児童相談に係る基準等作成グループが作成(2008)

「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループが改訂(2010)

※1[参考文献]“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”(Dr.Om Prakash Srivastava, Richard Fountain, Patrick Ayre and Janice Stewart)

Ⅱ 『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』の考え方

チェックシートを使用するうえで基本となる考え方は表-1のとおりです。この考え方は、GCPを参考に開発をしたものです。チェックシートを使用する場合には、あらかじめこの考え方を理解しておく必要があります。

チェックシートが大切にしている考え方である“子どもを中心にした子育て”とは、「子どものニーズをしっかりと満たしていること」「子どものことを最優先に考え、それを実践していること」「子どもの育ちに必要なものや関わりの質も考慮していること」の3つです。

それともう一つ大切にしている考え方があります。それは、“子どもは自ら育つ存在である”という点です。

つまり、“子どもを中心とした子育て”を、親が一方的にするのではなく、子どもと対話しながら実践することで“子どもは自ら育つ”ということです。チェックシートには、そのような考え方も盛り込んでいます。

表-1 基本となる考え方

段階	A	B	C	D	E
親の養育の水準	子どものニーズは何もかも満たされている。	必要不可欠なニーズは満たされている。	必要不可欠だが満たされていないニーズがある。	必要不可欠なニーズのほとんどが満たされていない。	必要不可欠なニーズが全く満たされていない。
親の子どもとの向き合い方	子どもが最優先。	子どもが優先。	子どもは親と同等。	子どもが後。	子どものことは考えていない。
親の養育の質	最も良い。	適切。	はっきりしない。	不十分。	最も悪い。

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”をもとに、岡山県基準等作成ワーキング・グループが翻訳/作成(2008)
 「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループが改訂(2010)

Ⅲ チェックするカテゴリー、項目及び細事項

チェックするカテゴリー、項目及び細事項は表-2のとおりです。

表-2 チェックするカテゴリー、項目及び細事項

カテゴリー	項目	細事項
1 基本的な生活	ア 食 事	① 栄養バランスや食材に気を配っていますか ② 食事の量はどうか ③ 育ちに応じた食事をつくっていますか ④ 食育を実践していますか
	イ 住 まい	① 安全に配慮していますか ② 育ちや希望にそった部屋になっていますか また、掃除は行き届いていますか ③ 快適に暮らすための設備がそろっていますか
	ウ 衣 服	① 暑さ寒さに応じた服を着ていますか ② 毎日、体に合ったサイズの服を着ていますか ③ 身なりを整えていますか
	エ 清 潔	○ 清潔さを保つ習慣が身につくようにしていますか
	オ 健 康	① 健康に不安があるときは、病院を受診していますか ② 必要な治療を受けていますか ③ 子どもの健康に関する情報に関心をよせていますか また、必要な予防接種や健診を受けていますか ④ 専門家のアドバイスを活用していますか
2 安全・安心	ア 親と一緒にいるとき	① 危険に気づいていますか ② ①の危険への対策をしていますか ③ 外出したとき、安全に気をつけていますか ④ 家の中は子どもにとって安全な場所になっていますか
	イ 親が不在のとき	○ 安全への対策をしていますか
3 愛情	ア 親	① 子どもの気持ちを察していますか ② 子どもの気持ちによりそっていますか ③ 子どもとのやりとりはどうか
	イ 親と子どもの関係	① 意見交流をしていますか ② 関係の質はどうか
4 子どもの尊厳	ア おなじ目線から見た働きかけ	○ 自分らしさが育まれるよう必要な働きかけをしていますか
	イ みとめてほめる	○ 子どもの変化、成長、成果に気づき、それをみとめ、ことばにして伝えていますか
	ウ みとめられないことをしたとき	○ わかりやすく伝えていきますか
	エ 子どものプライドが傷ついたとき	○ しっかりと受け止め、支えていますか

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”
をもとに、「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループが作成(2010)

IV 「支援を必要としている子ども」という考え

1 親の養育力が心配なカテゴリーへの支援

チェックシートで親の養育力を5段階に分けることにより、親が子どもに対してうまくできている部分と、心配な部分のカテゴリー別に明確になりますが、このうちDやE段階にある心配なカテゴリーについては、専門機関が何らかの支援を行う必要があります。

そして、全体を通して心配なカテゴリーが多くなるにつれて、必要となる支援の量（要支援レベル）は大きくなり、より多くの子どもの支援者（子どもの支援機関）が協働する必要性が生じてきます。

つまり、“子どもの最善の利益”を確保するために、地域で親子に関わっている様々な子どもの支援者（子どもの支援機関）が連携し、親の養育力が心配なカテゴリーをサポートするよう、それぞれの役割を決めて支援につなげていくこととなるのです。

2 要支援モデルと、必要となる支援の目安

要支援モデルのイメージは、図-2のとおりです。そして、要支援レベルの各段階で必要となる支援の目安は表-3に示しています。

支援をスムーズに行うためには、地域で親子に関わっている様々な子どもの支援者（子どもの支援機関）が話し合う場（ケース検討会議）において気をつけておくべきいくつかのポイントがあります。それは次のとおりです。

- 支援者がお互いに「子どもが心配」という想いと、具体的にどのカテゴリーが心配なのかを共有しましょう（チェックシートの考え方を共有して、実際に使って話し合しましょう）。
- 当面の支援目標をあまり高くないところに置いて共有しましょう。
- それぞれが実践する支援を具体的に設定しましょう。
- 手順や情報を集約する担当者（機関）と連絡方法を決めておきましょう。
- 会議の終わりには、決まったことと決まらなかったことの双方を確認しましょう。
- 次回の話し合いの日程を決めておきましょう。

図-2 「子どもが心配」要支援モデル

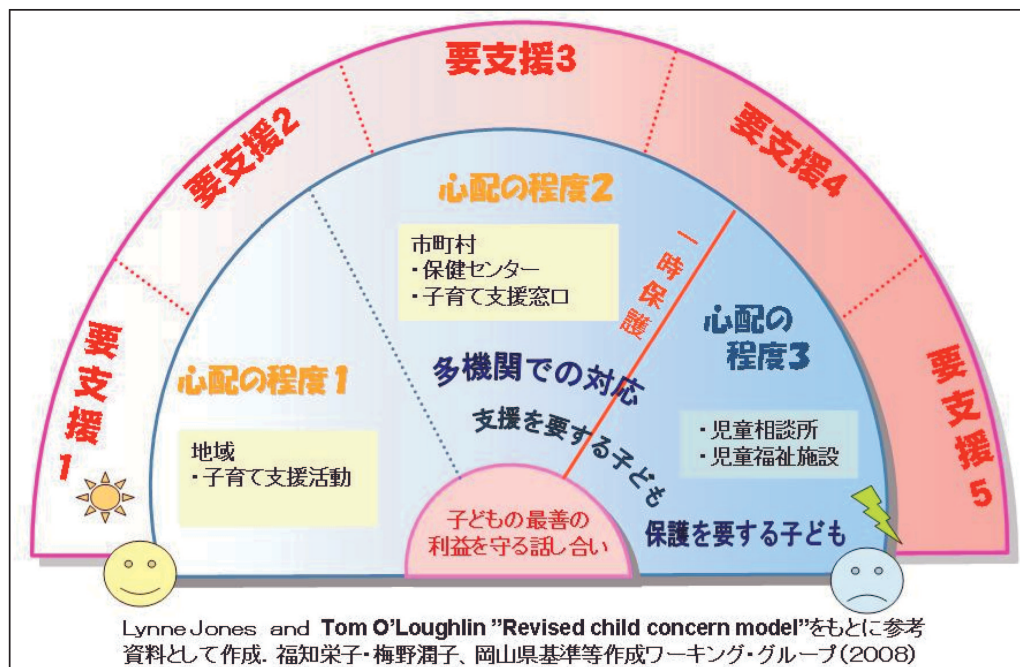


表-3 要支援レベルと、必要となる支援の目安

心配の 程度3	要支援5	緊急介入により、職権一時保護等の法的対応が必要
	要支援4	当面、在宅で支援を行うが、親子分離や法的介入を視野に入れた支援が必要
心配の 程度2	要支援3	在宅での支援を基調としながら一時的な施設利用等を考慮した支援が必要
	要支援2	在宅で地域ネットワークによる経過観察と育児支援等が必要
心配の 程度1	要支援1	虐待の判断は難しいが、今後移行するおそれがあり、育児支援や地域の子育て支援活動等が必要

岡山県児童相談に係る基準等作成グループが作成(2008)